

さるしま junior

第3号（春—その3）

令和3年4月26日発行

園長 小菅 哲也

トイレの使い方。難しいことをやさしく教える見事な技



子どもたちが帰った後、職員の間で「トイレの使い方」がしばしば話題となります。特にトイレットペーパーの使い方。個室に切れはしや丸めたものが落ちていることがあります。注意を呼びかけると、しばらくはきれいになるのですが、時間が経つと元にもどってしまいます。

今年度は、子どもたちに基本的な生活習慣を確実に身につけさせるため、生活目標

をしぼって指導していくことをめざします。4月の生活目標は「トイレをきれいに使おう」です。

この日は、梶山教諭が子どもたちの前に立ちました。トイレの使い方について楽しいパネルを使って説明したあと、“秘密兵器”が登場しました。「自作のトイレットペーパーホルダー」です。



プレイルームの片隅をトイレの個室に見立てて、先生がトイレットペーパーの処理の仕方を実際にやってみせます。「やってみたい」「自分にもできそうだ」と子どもたちの目が輝きます。一人ひとり順番にペーパーの処理の仕方を体験します。ペーパーが面白いようにきれいにカットされていきます。プレイルームに子どもたちの満足そうな笑顔がはじけました。



こんなにやさしい、こんなにわかりやすいトイレの使い方の指導があったでしょうか。ペーパーの「切れはしの片付け方の指導」はよく行われていますが、「切れはしを出さない指導」には、初めてお目にかかりました。これからトイレの使い方がどう変わるか、楽しみにになりました。

たかがトイレの使い方、されどトイレの使い方

「トイレの使い方には、子どもたちの心が現れる」。小中学校に勤務していた時、特に気にかけていたことのひとつが「トイレの使い方」でした。児童生徒の登校前や放課後、便器やトイレットペーパーの状態、ドアや流し、掃除用具入れなどをていねいに確認することが教職員の日課となっていました。



トイレの使い方が乱雑になっているときは、子どもたちが落ち着きや心のゆとりをなくしていることがよくありました。使い方の乱れが、子どもたちのSOSのサインだったこともありました。反対にトイレが美しく保たれているときは、学級や校内がしっとりとした温かい雰囲気にも包まれていました。まさに、トイレの使い方は、子どもたちの心のコンディションや校内の過ごしやすさのバロメータでした。それはまた、教師自身の子どもたちへの接し方を見つめ直す貴重な機会でもありました。



ものをたいせつにする人は、人もたいせつにできる



諏訪幼稚園のトイレの使い方は、課題ばかりではありません。2年前、諏訪幼稚園に赴任したとき、最初に感心したのが、子どもたちのトイレの前でのこんな行動でした。始業式の朝、年長さんが、トイレの前で友達が脱いだうわばきをそろえたり、トイレのサンダルを直したりしている姿を目にしました。「幼稚園の子でも、おとな顔負けの、こんな立派な行動がとれるんだ」と胸が熱くなりました。この素晴らしい伝統は、しっかりと受け継がれ今日にいたっています。

トイレに限らず、「ものをたいせつにする心」は伝染します。トイレがきれいに使えるようになると、掃除の仕方もていねいになります。掃除がきれいにできると、みんなで使う道具や文房具、おもちゃなどもたいせつに扱えるようになります。



ものをたいせつにする心は、友達や周りの人へのやさしさにもつながっていきます。さらに不思議なことに、先生や友達の話を中心して聴けるようになったり、活動するときの姿勢がよくなったり、最後まで



ねばり強く取り組めるようになったり…といった“相乗効果”を生み出すこともしばしばです。

4月16日の三笠公園への園外保育では、トイレのきれいな使い方がもたらした“成長の芽”が早くも見られました。詳しくは、「つくしんぼ3号」（令和3年4月20日）をご覧ください。

※画像は、園外保育（三笠公園）の一コマです。

◆いよいよ待ちに待ったゴールデンウィーク！

コロナ禍の中で迎える大型連休ですが、子どもたちは期待に胸を膨らませていることでしょう。交通事故や水難事故には十分に気をつけて、楽しい思い出をたくさん作ってくれることを願っています。

